キズナエピソード

環はなび　4話

//ADV形式開始

//カラオケボックス

［とびお］

「今日はやけに人数が少ないんだな」

［とびお］

大口の掛けをやるから必ず来い。

はなびにそう言われて

俺はまた、あのカラオケルームへと来ていた。

［はなび］

「今回の賭けは、いつもの単純な『賭事』じゃないからね。

自分の意志が勝ち負けに繋がる『博戯』。簡単に言えばゲームだよ。

だから、参加者も少ない」

［とびお］

「？　それじゃ……

場数を踏んでるやつの方が圧倒的に有利じゃないか？」

［はなび］

「心配するな。

内容はアンタもよく知っているゲーム――大貧民だよ」

［はなび］

「しかも今回は、アンティとは別にウマを設定した。

大貧民は大富豪に、貧民は富豪に、支払いだ。

下手をすれば元金は0どころか、マイナスだよ」

［はなび］

「それと、もう一つ大事なこと。

――今回は私も参加する」

［とびお］

「なっ！」

［はなび］

「アンタと限界まで勝負したくなったんだよ。

あのときのコイントス……久々にたぎったよ。

アンタとならとことん楽しめそうだ！」

［とびお］

「……狂ってるな」

［はなび］

「それはアンタも一緒だろう？

……顔、笑ってるよ」

//ADV形式終了

//ヴィジュアルノベル形式開始

そうして、負ければ多額の借金を背負う大貧民が始まった。

いつもよりも、プレッシャーは大きい。

……いつもよりも、興奮する。

//次ページ

勝負は淡々と進んでいった。

1枚、はたまた2枚、時には3枚と、

各自の手札はどんどん少なくなっていく。

俺はガンガンと攻め続け、ついに手札を3枚にした

クラブの5、スペードの10、そしてジョーカーだ。

//次ページ

「クラブの5だ」

俺は手札を2枚にする。

これで次の手番が来次第、ジョーカーで流して勝利だ。

一方、はなびの手札はまだ7枚もある。

この勝負、俺の勝ち――。

//ヴィジュアルノベル形式終了

//ADV形式開始

［はなび］

「ハートの8。8切りで場を流すよ」

［とびお］

「なっ……！」

［とびお］

しくじった……！　一転して窮地に追い込まれた。

俺の手札は1枚出しの勝負なら最強だが、

2枚以上の同時出しには、何もできない。

［とびお］

そんな動揺を見通しているかのように、

はなびは手札から同じ数字を一度に出した。

しかも――4枚同時に。

［とびお］

「革命……!?」

［はなび］

「あぁ。これでカケ2ね。

流すよ」

［とびお］

はなびの手札は、これで残り2枚。

1枚出しならば、こちらの勝ち。

2枚出しをされれば、こちらの負け――。

［参加者］

「みんな、ちょっとストップ！」

［とびお］

そのとき、参加者の1人が突然大声を上げた。

［はなび］

「なに。ノッてる時に水を差さないでよ」

［参加者］

「それどころじゃない！

このカラオケに警察が入ってきたって連絡が！」

［はなび］

「っ！

おい！　ケツまくるぞ！」

［とびお］

瞬時に、緊張が場を走り抜けた。

かと思えば次の瞬間には

みんな蜘蛛の子を散らすように逃げ始める。

［とびお］

「え、え？　どうなったんだ？」

［はなび］

「サツが来たら、とにかく逃げる。

そういう取り決めなのさ。

面倒事が嫌だったらアンタも早く逃げな。」

//渋谷・外

［とびお］

こんな状況にも慣れているのか、

はなびは迅速に俺をカラオケ店から連れ出してくれた。

だが、道にも何人か警官が立っている。

［はなび］

「ここは二手に分かれて奴らを撒こう。

あとで駅前で落ち合う。いいね」

［とびお］

「わかった。はなび、無事でいろよ」

［はなび］

「アンタこそね」

//ADV形式終了

//ヴィジュアルノベル形式開始

//渋谷の町並み

俺は全力で走った。

後ろを振り返らずに、全力で逃げた。

路地を通り抜け、塀を飛び越え、道なき道を行く。

肺がギブアップした頃に、ようやく後ろを見た。

もう追手はいなかった。

逃げ切った。

はなびはどうだっただろう？

//次ページ

//渋谷駅改札

俺は駅へと向かい、はなびを探す。

……だが、いない。

人が多すぎるせいが、彼女を見つけられない。

逃げ切れなかったのだろうか。

不安が脳裏をよぎり、息が苦しくなる。

//次ページ

「あっ！」

そこでようやく、柱の陰にはなびの姿を見つけた。

よかった。

きちんと逃げ切れていたんだ。

それでこそ、はなびだ。

//次ページ

向こうもこちらに気づいたようで、視線が合う。

嬉しそうな笑顔を浮かべて――。

次の瞬間、はなびの横から警察が現れた。

奴らははなびに話しかけ、何回かやり取りをして。

そして、彼女を連れ去っていった。

……俺は、それを見ていることしかできなかった。

//ヴィジュアルノベル形式終了

//4話END